

## 2024年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

書式 1

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	文学部・教授
	氏名	久保 昭博
海外客員 教員	所属・職	ソルボンヌ・ヌーヴェル大学・教授
	氏名	Françoise Lavocat (フランソワーズ・ラヴォカ)
招聘目的	1. 授業担当及び研究 ②. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2024 年 9 月 30 日 ~ 2025 年 1 月 7 日	
成果報告 以下の内容を日本語で記載して下さい。	<p>2024年度秋学期に、ソルボンヌ・ヌーヴェル大学(フランス)のフランソワーズ・ラヴォカ教授を文学部に招へいた。ラヴォカ教授は同大学比較文学学科の教授であると同時に、国際連携関連を担当する副学長でもある。以下、共同研究の内容ならびに成果のうち、主要なものを三点記す。</p> <p>1. 授業担当及び研究 (1) 授業科目名 (2) 授業担当の成果 (3) 研究の内容 (4) 研究の成果</p> <p>2. 共同研究 (1) 共同研究の内容 (2) 共同研究の成果</p> <p>3. 特別枠 (1) 活動内容 (2) 成果</p> <p>・報告者は、2018年にラヴォカ教授を代表として設立した「国際フィクション・フィクションナリティ研究会(SIRFF/ASIFF)」の副代表を務めており、文学理論、フィクション理論の分野で同教授とは以前より共同研究を行っていた。おりしも2024年はこの研究プロジェクトの第3回国際シンポジウムを本学で開催することになっていたため、ラヴォカ教授の来日はこのシンポジウムの準備ならびに開催にとってたいへん貴重なものとなった。結果として、「フィクションの段階」というテーマで10月18~20日の3日間にわたって梅田、上ヶ原両キャンパスで開催されたシンポジウムは、15以上の国から77人の研究者を集める重要な学術会議となった。また、シンポジウム終了後には、ラヴォカ教授と同シンポジウムの成果の出版について打ち合わせを重ねることができた。</p> <p>・10月26日から27日にかけて、報告者を実行委員長とする日本フランス語フランス文学会(SJLLF)秋季大会を関西学院大学で開催した。ラヴォカ教授はこの学会において「ソフィー・コッター、クレール・ド・デュラス、デルフィーヌ・ド・ジラルダンと19世紀前半におけるフランス小説の変化」と題された特別講演を行った。講演は、19世紀初頭に人気を博していた女性作家たちがいかにバルザックやユゴーらの男性作家に取って代わられたかをデジタルヒューマニティーズの手法などを駆使して分析した刺激的なものであり、これを機として日本全国のフランス文学研究者と実りある学術交流を行うことができた。なおこの講演は、同学会の学会誌に掲載される予定である。</p> <p>・報告者を研究代表者とする科研費基盤(B)「近代におけるフィクションの社会的機能についての領域横断的研究」プロジェクトの一環として、ラヴォカ教授ならびに辻川慶子教授(白百合女子大学)を講演者として招いた公開ワークショップを12月7日(日)に東京大学駒場キャンパスにおいて開催した。「メディアを横断するフィクション」と題したこのワークショップは、メディアによって拡散され、あるいは変容するフィクション作品の多様な姿を捉えることを目的としたもので、20名あまりの参加者と有意義な意見交換を行い、また今後の共同研究プロジェクトの展望について話し合うことができた。</p>	

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

\*本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます